

熊本市 感染症発生動向調査 速報

現在の流行状況

伝染性紅斑(りんご病)が警報レベルです！

熊本市における第45週(11月2日～11月8日)の定点医療機関あたりの患者報告数は、2.25人(定点数16ヶ所、患者報告数36人)となり、前週(1.13人)より増加し、国の警報レベル(開始基準値2、終息基準値1)を超えました。

伝染性紅斑(りんご病)は、5～9歳の学童に最も多く発生し、次いで0～4歳に多く見られる感染症です。頬がりんごのように赤くなるので、りんご病とも呼ばれています。

ていねいな手洗いやうがいを行い、感染予防に努めましょう。

【伝染性紅斑(りんご病)について】

○感染経路：咳のしぶきやくしゃみにより感染します。

○症状：頬に発疹が出る7～10日位前に、微熱やかぜ症状などが見られ、1週間くらいでよくなることが多いです。

発疹が出て、頬が赤くなるころには感染力はほぼ消えます。

大人がかかると、関節痛や関節炎を起こすことがあります。

感染しても症状が現れない状態(不顕性感染)も、一定程度(約4分の1)存在します。

○治療法：対症療法を行います。

○予防方法：ていねいな手洗いやうがいを行いましょう。また、妊娠初期の感染について、流産の危険性も指摘されていますので、妊娠している人は流行時には人混みを避けましょう。

期 間		平成27年 第44週		平成27年 第45週	
		10/26～11/1		11/2～11/8	
疾患名	疾患の増減	報告数	定点当り	報告数	定点当り
インフルエンザ		0	0.00	0	0.00
RSウイルス感染症		25	1.56	14	0.88
咽頭結膜熱(プール熱)		2	0.13	4	0.25
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		22	1.38	50	3.13
感染性胃腸炎		81	5.06	78	4.88
水痘(みずぼうそう)		1	0.06	0	0.00
手足口病		4	0.25	2	0.13
伝染性紅斑(りんご病)		18	1.13	36	2.25
突発性発しん		15	0.94	15	0.94
百日咳		0	0.00	0	0.00
ヘルパンギーナ		2	0.13	0	0.00
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)		6	0.38	7	0.44
急性出血性結膜炎		0	0.00	0	0.00
流行性角結膜炎(はやり目)		31	6.20	35	7.00
細菌性髄膜炎		0	0.00	1	0.20
無菌性髄膜炎		0	0.00	1	0.20
マイコプラズマ肺炎		9	1.80	7	1.40
クラミジア肺炎(オウム病を除く)		0	0.00	0	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルス)		1	0.20	2	0.40